

第6話の要約と参考資料

第6話の要約

祖母・傾・大崩山系は、急峻な山岳地形や多様な動植物などが評価されてユネスコエコパークに登録されました。この景観をつくったのは地下から噴きあげてきたマグマ。そのマグマは同時に、この地域を日本有数の鉱山地帯にしました。土呂久はその一角にあります。

第6話の参考資料

6-1. 祖母・傾・大崩山系のユネスコエコパーク登録

祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク推進協議会のホームページは、

<http://sobokatamuki-br-council.org/>

です。

6-2. マグマがつくった急峻な山容と鉱山

足立富男「大崩山花崗岩」(「宮崎県大百科辞典」P113より)

大崩山を中心に東西15km、南北13kmにわたり露出している花崗岩で、尾鈴山酸性岩・市房山花崗岩などとはほぼ同じく、新生代新第三紀中新世のころに形成された。K(カリウム)–Ar(アルゴン)法による年代測定では約1380万年前である。地表部は四万十累層群を貫く形で地下深部からマグマが上昇したものである。山頂付近には四万十累層群や見立礫岩層・祖母山火山岩類などがわずかに残っているが、浸食によって花崗岩が露出した所では随所に尖峰・絶壁など急峻な山容を作っている。また多くの場所で河床に甌穴が見られ、特に祝子川上流のものは有名である。花崗岩は粗粒～中粒で石英・正長石・斜長石・黒雲母などより出来ている。本岩体はいわゆる底盤で、地下ではさらに広範囲に分布し、北方の秩父帯の中・古生層だけでなく祖母山火山岩類の一部にも接触変成作用を与えている。とくに秩父帯の石灰岩層と接触する所ではスカルン鉱物を生じ、有用鉱物が出来るため、これらの地域には鉱山が多く存在している。尾平、豊栄、木浦(以上大分県)、鹿川、小河内、見立、嘉納、音ヶ淵、中野内、萱野、惣見、黒葛原、土呂久などがその例である。また同じ時代に大崩山の花崗岩底盤をとりまいて延長40km以上のきわめて大規模な岩脈(環状岩脈)が派生した。岩質は花崗斑岩より硬く風化・侵食に耐えるため急峻な山体を作っている。可愛岳、行藤山、比叡山、矢筈山、丹助岳、焼山寺山などがその代表的な山である。しかしこの岩脈の接触変成作用は弱く、幅数m程度である。この他にも小規模な岩脈や岩株が多く、地質を複雑にしている。全般に山岳美、溪谷美を作って風光明美なところが多い。